

畜産経営の管理指標

(畜試 経営部)

1. 背景とねらい

農業の中でも、畜産業については大規模化、経営の法人化と進むにつれ、経営の管理基準をどこに見つけていけばよいかという疑問が常に残っている。負債問題といっても、生活費との区分がはっきりとせず、その原因を捜していくのは難しい。しかし、多量の資金が回転している畜産業のようなものは、その経営管理をきちんとしたものにしていかなければならない。今回は、経営管理指標とくに安全性分析という立場から、資本、資金、売り上げ等の関係で畜産分野における活用範囲について検討してみた。

2. 技術の内容

1. 経営管理の指標項目は非常に多いが、その中から安全性分析の立場から畜産部門に適用できる体系を整理すると次のようになる。(第一段階は一般的指標、第二段階で深める指標とした。)

各指標の判断基準

	第 1 段 階			第 2 段 階		
	指 標 名	(一般的に) 良い 普通 低い			指 標 名	判 断 基 準
流 動 性	①自己資本比率	% 50	% 25	% 10	●資金構造適合度 ③/④	●負債が大きくなると財務 リスクが増加する。 ●1以下の場合短期資金の 割合が大きいの事を示し ている。(金利負担が加 重である。)
	②負 債 比 率	100	300	900		
	③流 動 比 率	200	130	90		
	④固定長期適合率	50	75	110		
収 益 性	⑤売 上 高 対 営 業 利 益 率	15 (10	10 5	5 3)	●投資営業利益率 ●借入金の月商倍 率 (借入金合計) ÷ 1か月平均の 売り上げ高 注 借入金は短期 長期の合計である	●営業利益率と投資回転率 の積(利益割合と回転率 の両面から判断する指標) (良い 普通 注意) 酪 農 8倍 15倍 30倍 肉牛肥育 } 5 10 20 養豚 ●1か月の平均売り上げ高 の何倍の借入金があるか という考え方である。 *カッコの数字は肥育経営 の場合である。
	⑥経営資本回転率	1以上を目標0.5 以下になると注意				
	⑦棚卸資産回転率 (肥育の場合)	⑥が低くても利益 率が高ければ問題 がない。				
	⑧売 上 高 対 支 払 利 息 率	3	6	10		
	⑨売 上 高 対 生 産 原 価 率	80 (85	85 90	90 95)		
	⑩売 上 高 対 損 益 分 岐 点 の 比 率	80	85	95		
				(中小企業の診断基準を参考にして算 出している。)		

2. 1. の第二段階における月商倍率は最も簡易な安全性を見る診断項目と考えられるが、農家の利益率、利用資金の金利水準により変動してくるので注意を要する。

借入金における

月商倍率とは(考え方)

$$\textcircled{1} \text{ 営業利益} + \text{受け取り利息} = \text{支払い利息負担利益}$$

$$\textcircled{2} \text{ 支払い利息負担利益} \div \text{金利率} = \text{借入金限度額} \text{ -- (A) } \\ \text{(実質金利率)}$$

$$\textcircled{3} \text{ 借入金限度額} \div \text{年間売上高} = \text{借入金の年商倍率 (B) } \\ \text{(A) (B) の式から } \textcircled{3} \text{ はつぎのように書ける。}$$

④ 支払利息負担利益 ÷ (年間売上高 × 金利率)

= 支払利息負担利益率 ÷ 金利率

⑤ 借入金の月商倍率 = (B) × 12 - 月平均売上高の何倍が借入金としてあるかである。

< 参 考 >

支払利息負担利益率 (A)	÷	金利率 (B)	= 借入金の年商倍率 (C)	12ヶ月 × (C) 借入金の月商倍率
4.0 %	÷	8.0 %	= 0.5 倍	6.0 倍
5.0		7.0	= 0.7	8.6
10.0		6.0	= 1.7	20.0

3. 指導上の留意点

(1) いくつかの期間を通しての診断が必要である。(成長性分析が必要)

(2) 単一の指標による診断ではなく、あくまでもトータル的に診断するべきである。

4. 参考資料

① 財務分析入門 (銀行研修社) ② 倒産分岐点活用法 (同友館) ③ 中小企業の実態及び経営指標 (中小企業庁編)

5. 具体的図表

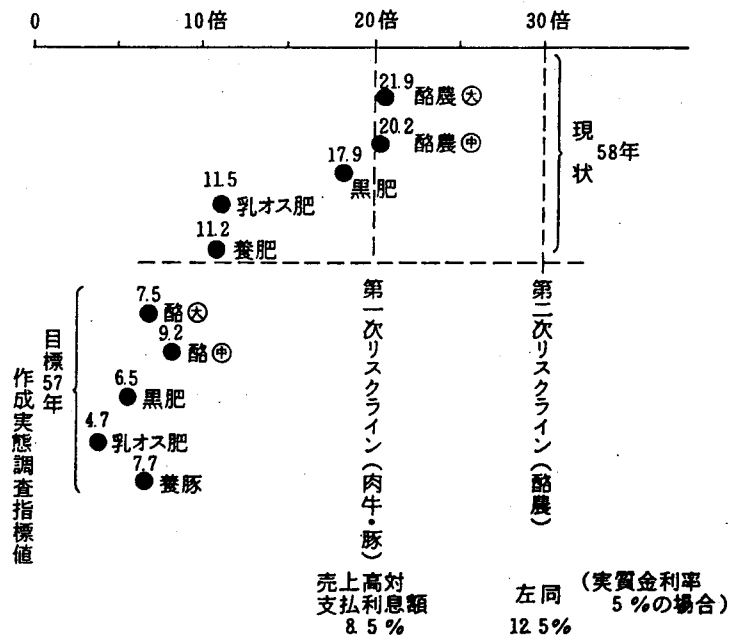


図1 借入金における月商倍率の現状 (58年)